



CDP2014 優秀企業

住友林業株式会社



住友林業株式会社
取締役常務執行役員 佐藤 建氏

昨年初めてCDLIに選定され、連続でCDPにおいて高い評価を頂きました事は、企業価値の向上にとても大きな力となっております。

当社では木を軸にした、注文住宅事業、木材建材の流通事業、非住宅の木化事業、山林事業、環境エネルギー事業、緑化事業、木質系建材の製造事業等を行っており、事業そのものがサステイナブルな社会の発展に貢献しているという特徴をもっていると言えます。

プロジェクトアース

地球温暖化に大きく影響するCO₂の排出削減の取り組みである「プロジェクトアース」は、注文、分譲住宅合せて年間約1万棟の床面積の2倍の荒廃地に新たな森を造ろうというものです。荒廃地に木を植え10年間育てる事により、主要構造木材の伐採から搬出、製材、運搬、施工の製造過程で排出される全CO₂を吸収しようというカーボン・オフセットの取り組みです。又、当社は年間6万トンのCO₂を排出しています。約300ヘクタールの荒廃地に木を植え10年育てて全てを吸収する取り組みを実施しています。これは

2009年から5年計画で実施され、2014年で既に1500ヘクタールに150万本の植林が実施され、更にあと3年間継続する事になりました。

このプロジェクトアースの植林では環境保全のみを目的とする環境植林と、地域社会の発展にも貢献しようという産業植林の二通りを行っています。産業植林は苗木を無償で配布し、地域住民の協力によって木を育てる住民参画型で行われ、インドネシアでは5年程で大きくなります。従来荒地として放置されていた場所に植林をし、5〜6年で大きくなった木を当社が全部買い取って、又植林をします。インドネシアはイスラム教徒の多い国なので、現金収入が得られる事で「木を植えてメッカへ巡礼に行こう」と言うムーブメントも起きています。しかしながらCDPでは自主的なカーボン・オフセットの取り組みを評価する項目がないので、こうした項目も評価して頂ければパフォーマンススコアのアップも見込めると思います。

バイオマス発電

木や植物を燃焼させて電気を作る

と燃焼時にCO₂が発生しますが、これは元々木や植物が大气中から吸収したもので、カーボンニュートラルなエネルギーと言われています。当社では川崎市で既に3万3千キロワットの発電所を稼働しており、紋別では5万キロワットの発電所の建設に既着手しており、計画中の物も合わせると10万キロワットの発電所を稼働させる目途が立っており、更に20万キロワットまで拡大したいと考えております。

木と生きる幸福

当社グループは将来世界一の森林会社になろうと言う壮大な目標を掲げ、国内では国土面積の900分の1の4万6千ヘクタールの森林を、海外では20万ヘクタールの森林を管理しています。木や森や緑の持つ全ての価値を余すところなく引き出し、それらを基軸として住生活に関する事業を通じて、豊かな社会の実現に貢献する会社になろうと言う目標です。今年、『木と生きる幸福』という新たなブランドメッセージを発表し、今後も事業を通じて当社らしい気候変動対策や社会貢献を進めてまいります。